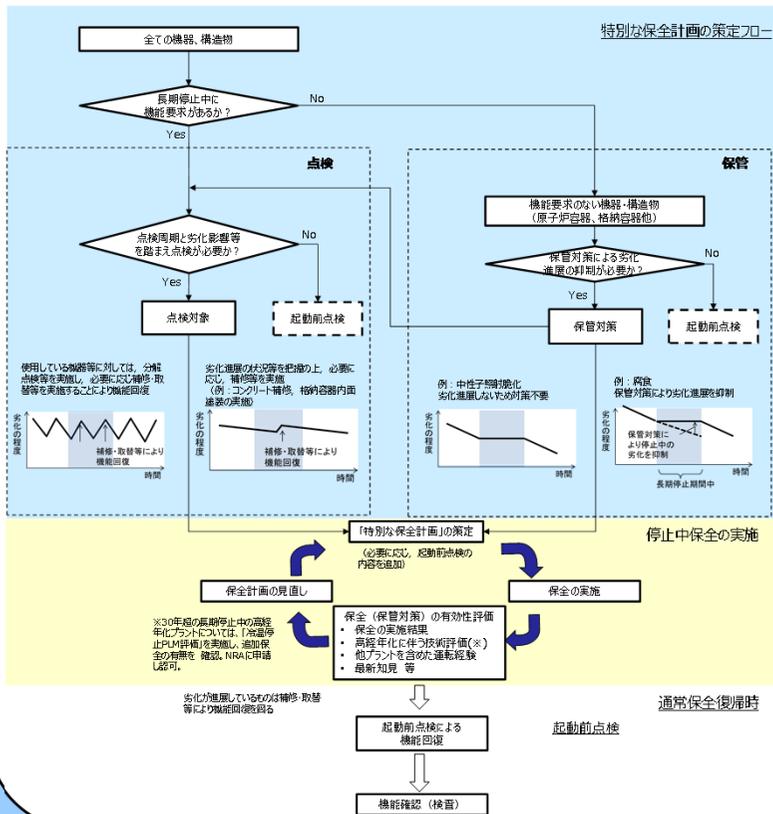


ATENAガイド

技術論を通して、取組方針について「共通理解」を得る

- 長期停止期間が大幅に長期化している状況を踏まえ、各事業者が経年劣化管理を確実にすることは、今後の安全な長期運転のためにも重要な取組。
- 長期停止期間中の経年劣化が有意なものとならないように、停止中の特別な保全計画策定の基本的な考え方を、ガイドとして取りまとめ。

● 本文・添付. 特別な保全計画策定の基本的考え方



- 本文. 停止時保全（特別な保全計画）策定の基本的な考え方
 - 安全な長期運転に向けて、停止時の保全計画を策定
 - ✓ 停止時に機能要求がない機器・構造物は「保管」、機能要求があるものは「点検」。
 - ✓ 長期停止期間中の経年劣化事象に対して、適切な保全計画を策定（例）停止中の定期的な点検、起動前の総点検・取替等により機能を維持。
 - 保全（保管・点検）の有効性評価を行い改善。
 - 通常運転に復帰時には、検査等により機能が維持・回復していることを確認

- 添付. 長期停止期間中に想定される経年劣化事象

各事業者の取組

- 保全の実施（PDCA）
- 特別な保全計画の策定（P）
具体的な点検・保管方法、頻度を、各社の保全実績等を踏まえて策定
- 保全の実施（D）
- 有効性評価（C）
- 計画の見直し（A）

* 現状の取組について、ATENAガイドを踏まえてレビュー。必要により見直し。

NRAによる確認

● 別添. 取替困難な機器・構造物の経年劣化評価と保全ポイント

プラントの寿命に影響する可能性がある機器・構造物について、長期停止期間中の保全ポイントを整理。

(1) 取替困難な機器・構造物
原子炉容器、格納容器、コンクリート構造物、ケーブル

(2) 長期停止期間中の経年劣化影響、及び、保全ポイントの整理
(例) 格納容器：塗膜管理（腐食）

表0 原子炉格納容器（PWR）に対する長期停止期間中の経年劣化がプラント運転期間に及ぼす影響と保全ポイント

経年劣化事象	想定される部位	長期停止期間中の経年劣化影響		長期停止期間中の保全ポイント	備考
		影響有無	説明		
疲労割れ	トップドーム部等	×	運転中、停止期間中とも大きな圧力・温度変動を受けない	-	
腐食	トップドーム部、円筒部	△	胴体の内面および外面（PCVの場合はライナープレートの大気接触部）に塗装を施しており、塗膜の健全性を維持することで、停止期間中の腐食の発生を防止できる	適宜塗膜の健全性を目標点検により確認し、必要に応じて再塗装を実施する	
腐食	コンクリート埋設部（スタッド含む）	×	コンクリート内の水酸化カルシウムにより強アルカリ環境を形成しており、鉄表面は不動態化しているため、腐食速度としては極めて小さい		

技術論を通して、技術的な妥当性について「共通認識」を得る